

令和7年度第3回長崎市社会教育委員会議の協議結果について

1 日 時 令和7年12月16日（火）18時30分から20時30分まで

2 場 所 長崎市役所5階 第3委員会室

3 出席者 委 員 9人中9人出席

事務局 生涯学習企画課長、同課地域学習係長、職員1人

4 議事内容

(1) 答申の内容について

5 主な意見

(1) 答申の内容について

ア 「地域活動の衰退」箇所の「コロナ」の表記については、すでにあまり使われなくなっていると思うが表記を「感染症」に修正したほうがいいのではないか。

イ 実施例では、こども関係の紹介が多いので、社会教育施設での取組等、こども関連以外のことも追加してほしい。

ウ 社会教育は社会全体で行っているので、P. 4の実施例には民間企業の実施例も追加してほしい。

エ まとめのフォーマットはその枠に捉われることになるため、柔軟なまとめ方にしたほうがいいと思う。

オ 災害など人がつながらなければならない時など、地域のつながりは暮らしや生活に関わってこることもあり、まちづくりを考えること自体が社会教育につながる。また、社会教育施設がまちづくりに関わってほしい。

カ 地域の資源をいかに活かしていくかというのがP. 6の項目にある「地域を活かす取組」になると思うので、地域にある施設も活用してほしい。地域に埋もれた伝統や文化を掘り起こすきっかけづく

りにもなるかもしれない。

キ SNSで発信することも大事であるが、実際に体験し、触れあってみて、参加者からの口コミなどで広がっていけばいいと思う。

ク 情報発信について、高齢者はチラシや回覧板などの紙媒体を見るが、若者は紙媒体ではなく、電子で確認しており、今は情報発信の過渡期であると思うので、今はどちらの媒体もうまく使っていかなければならない。

ケ 大学自体も地域と関わるのが大事になっており、大学の文化祭は大学生だけが楽しむイベントではなく、地域で多世代交流ができる場になりうる。

コ 「多世代」とすれば、こどもから高齢者までとなるが、地域・企業・行政などの「社会全体の交流」も大事であると思うので、一概に「多世代」とするのではなく、広域交流も含めた言葉にしてほしい。

サ 「町」という小さい地域での取組ばかり考えになっているが、「市」という大きい地域での取組も考えたほうがいい。例えば、各町の魅力を競争し合うコンテストなど「うちの地域はここがすごい、これが美味しい」などを競い合うことも、楽しいアプローチとなり、地域の魅力が向上していくのではないかな。また、他の地域のことを知りたいと思うようになったりして、行ってみようというツアーなど民間企業も絡めて、主催するコンクール・コンテストなどをしたらいいと思う。

シ 公民館まつりにおいても、発表だけで終わらず、自治会や地域コミュニティ連絡協議会なども一緒にイベントを行っている公民館もあったので、そのような形で公民館まつりをしていけばよりいいものになる。

ス 地域おこしをする会社を起業した人に相談をし、イベントを実施したこともあり、そのようなアドバイザー（前から話に出ているコミュニティナース等）が必要になってきている。